

「～を小さくなっていく」について

— 日 本 語 と 韓 国 語 の 場 所 表 現 の 相 異 —

朴 垠 貞

1. はじめに

日本語と韓国語は類似した言語である。しかし、両言語が類似している言語とはいえ言語表現の面から考えると、多くの相異が見られる。この表現の相異は文化、習慣、国民性などの様々な理由が考えられる。

本稿は移動動詞構文における両言語の表現の相異を調べることを目的とする。特に、移動動詞「行く」が「小さくなっていく」というような表現で使われたときの日本語と韓国語との表現の相異を考察したものである。次はその例である。

(1)そして、大通りをだんだん遠く小さくなっていくのでした。(『アラビア』p.34)

그리고 큰 거리에서 점점 멀리 작아져 가는 것이었습니다.

kuliko khunkelieyse cemcem melli cakacye kanun kesiesssupnita

(1)では、日本語においては経路の「を」格が用いられるが、韓国語は「에서(eyse)」格が用いられている。「小さくなっていく」という移動¹⁾は意味的に<起点>と<着点>がはっきりしている移動ではないので、日本語では<経路>の「を」格で表している。しかし、上記の例をみると、韓国語は<起点>とも<経路>とも言い難い。韓国語においては「작아져 가다 (小さくなっていく)」の「가다 (いく)」の影響で「에서(eyse)」格が<起点>のように見えるが、実際は<起点>ではない。例(1)を<起点>として捉えにくいのは、<起点>が本来の場所とその場所から離れることを意味しているためである。従って、(1)のように一つの場所での行為を表すことはできない。また、<経路>であるとすれば、<経路>の「로(lo)」格か「을(ul)」格が用いられるはずである。従って、「小さくなっていく」という移動行為が一つの場所で行われているので、日本語では<経路>で表されている。しかし、韓国語では移動行為が一つの場所であっても<経路>とはいえない。そして、<起点>ともいいにくい。これを説明するには、格助詞の前にくる名詞と「小さくなっていく」という移動表現の二つに焦点をあてる必要がある。そして、この問題は、韓国語の助詞「에서(eyse)」の本質的な意味に関わっている。

本稿では、日本語の<経路>表現が韓国語では<経路>以外のどのような表現で現れるのかを考察する。そして、日本語の「を」格に対応する韓国語の「에서(eyse)」の用法についても考察することにする。

2. 先行する場所名詞と主語について

「小さくなっていく」という移動動詞構文の幾つかの例を見ながら全体的な特徴を調べてみる。まず、「小さくなっていく」の移動場所について考えてみる必要がある。「小さくなっていく」に先行する場所名詞としては、「草原、砂漠、海、道路、空」などの広い範囲の場所を表す名詞があげられる。広い場所でなくても長い道のような一直線の場所には「小さくなっていく」という表現は可能である。これは、ある程度移動し小さくなったとしても対象が見えるということが場所を表す名詞の前提となっていることを意味する。そして、「小さくなっていく」という表現は場所名詞をとることで移動動詞構文を表しているが、場所名詞以外の名詞とも共起することが可能である。これについては後述する。次の例は、「小さくなっていく」が場所名詞の後にくる場合である。

- (2) 男の姿が霧の中を小さくなっていった。

남자의 모습이 안개속에서 점점 작아져 갔다.

namcauy mosupi ankyaysokéyseyse cecem cakacye kassta

- (3) ラクダに乗ったアラジンの姿が砂漠を小さくなっていったのでした。

낙타를 탄 알라딘의 모습이 사막에서 점점 작아져 가는 것이었습니다.

nakthalul than allatinuy mosupi samakeyseyse cecem cakacye kanun kesiesssupnita

- (4) 飛行機が滑走路をだんだんと小さくなっていきやがて姿が見えなくなった。

비행기가 활주로에서 점점 작아져 가는 것이었습니다.

pihyangkika hwalculoeysese cecem cakacye kanun kesiesssupnita

- (5) 白い馬は、やがて草原を小さくなっていったのでした。

백마는 이윽고 점점 초원에서 작아져 가는 것이었습니다.

pyaykmanun iukko cecem choweneyseyse cakacye kanun kesiesssupnita

- (6) 馬に飛び乗ったローンレンジャーは、疾風のごとく駆け出し荒野を小さくなっていったのでした。

말에 탄 로렌자는 질풍처럼 달려 황야에서 점점 작아져 가는 것이었습니다.

maley than loleyncanun cilpwungchelem tallye hwangyaeyseyse cecem cakacye kanun kes iesssupnita

格助詞の前にくる場所名詞については上記で説明したように日本語と韓国語の間で異なるところがない。しかし、その場所を<経路>と<起点>のどちらにとるのか、また、場所名詞以外のどういう名詞と共に起するかが問題になる。

上記の例の中、日本語の(5)(6)が少し不自然なのは主語が有生物であるからである。他の例は、主語が「姿」「飛行機」などの無生物であるので「小さくなっていく」とともに用いることができる。つまり、日本語の「小さくなっていく」という表現は動作主である主語が無生物であったほうが自然な感じがする。実際、「小さくなって行く」という表現は移動による距離の増加に反比例して「小さくなっていく」ことを表す。日本語は無生物が動作主であることが自然であるが、韓国語ではそのような主語の有生・無生はそれほど問題にならない。

3. 場所の捉え方の相違（日本語と韓国語の相異）

場所という概念は普遍的であるが、その場所の捉え方という表現の問題については相異点が多くみられる。これは日本語と韓国語のように類似している言語においても見られる現象である。次の例を見てみよう。

- (7) 비행기가 구름속으로 (? 울 / 에서) 점점 작아져 갔다.
pihayngkika kwulumsokulo(?ul/eyse) cecem cakacye kassta
飛行機が雲の中をだんだん小さくなっていった。

(7)は韓国語では経路の「로(lo)」格と「에서(eyse)」格が用いられている。韓国語の「작아져 가다 (小さくなっていく)」は全体的なく経路>を表す「울(ul)」格とは共に用いられないが、部分的なく経路>を表す方向の「로(lo)」格とは共に用いることができる。この全体的なく経路>と部分的なく経路>には次のような違いがある。

- (8) 철수는 다리를 건넜다.
chelswunun talilul kennessta
チョルスは橋を渡った。
(9) 철수는 다리로 건넜다.
chelswunun talilo kennessta
? チョルスは橋へ渡った。

例(8)は橋が<経路>の全体になるが、(9)の場合は橋は部分的なく経路>にすぎない。次の例のように副詞「完全に」を入れるとその違いが明白に現れる。

(8') 철수는 다리를 완전히 건넜다.

chelswunun talilul wancenhi kennessta

チヨルスは橋を渡りきった。

(9') ? 철수는 다리로 완전히 건넜다.

chelswunun talilo wancenhi kennessta

? チヨルスは橋へ渡りきった。

韓国語の例(8')と(9')のように副詞「完全に」を入れると(8')は自然であるが、(9')は不自然になる。(8')は橋全体が一つの経路であることを意味している。一方、(9')は橋を渡ってどこかの目的地に行くことを意味しているので、橋を部分的な経路としてとらえている。つまり、「小さくなっていく」は、日本語においては<経路>を表す「を」格としか共に用いることができない。しかし、韓国語の「작아져 가다 (小さくなっていく)」は<経路(部分的な)>の「로(lo)」格、<移動行為(密着された空間での)>の「에서(eyse)」格と用いられることができ、さらに、例(11)のように<起点>を表すことも可能である。次の例を見てみよう。

(10) 말이 황야에서 작아져 갔다.

mali hwangyaeyse cakacye kassta

? 馬が荒野を小さくなっていった。

馬の姿が荒野を小さくなっていった。

(11) 말이 눈앞에서 작아져 갔다.

mali nwunapeyse cakacye kassta

? 馬が目の前から小さくなっていった。

馬の姿が目の前から遠ざかりだんだん小さくなっていった。

(12) 커다란 풍선이 시야에서 작아져 갔다.

khetalan phwungseni siyaeyse cakacye kassta

大きな風船が視野の中で/?を/?から小さくなっていった。

上記の例(10)と(11)では共に「에서(eyse)」格が用いられているが、(10)は<移動行為の場所>を表し、(11)は目の前から離れるという意味なので<起点>を表しているといえる。この<起点>は限られた場合ではあるが、(11)(12)の韓国語のように<起点>を表すことは注目すべき点である。

このように、韓国語は幾つかの格助詞によって場所を様々に捉えることができる。一方、日本語は「を」格しか用いることができないことから、<起点><経路><移動行為>などの場所に限られることなく動きを中心とする経路重視の傾向があるといえる。

韓国語の「작아져 가다 (小さくなっていく)」表現は「+移動性」が考えられない場合がある。その場合、「가다 (行く)」動詞は必ずしも移動動詞としての移動の意味をもっているわけではない。日本語の「小さくなっていく」という表現も移動動詞「行く」による「+移動性」が考えられるが、必ずしも「+移動性」であるわけではない。次の例を見てみよう。

(13)로켓트가 하늘에서 (로) 작아져 갔다.

lokheysthuka hanuleyse(lo) cakacye kassta

ロケットが空を(*へ)小さくなっていった。

(14)커다란 버터덩어리가 후라이팬속에서 (*으로) 점점 작아져 갔다.

khetalan petetengelika hwulaiphansokeyse(*ulo) cemcem cakacye kassta

大きいバターがフライパンの中で(*へ)だんだん小さくなっていった。

(13)は「+移動性」であるが、(14)は「-移動性」である。韓国語において(13)と(14)は共に「에서(eyse)」格が用いられているが、日本語の(14)は「を」ではなく「で」を用いている。また、「+移動性」の(13)では「で」ではなく「を」が用いられている。日本語においては(13)のように移動しながら「小さくなる」ことと、(14)のように同じ場所で「小さくなる」という状態の変化を格助詞で区別しているが、韓国語では格助詞「에서(eyse)」が両方の場合に用いられている。つまり、韓国語の格助詞「에서」は<移動(移動)>と<状態(場所)>とを区別せずに用いられている。

韓国語では方向性格助詞「로(lo)」を入れると移動としての「行く」という意味がはっきり現れるが、(14)の例の「가다 (行く)」は単に状態の変化を表している。上記の例は主語が異なる場合であるが、次は主語が同じである場合を見てみる。

(15)커다란 풍선이 하늘에서 작아져 갔다.

khetalan phwungseni hanuleyse cakacye kassta

大きな風船が空を/?で(?から)小さくなっていった。

(16)풍선이 손안에서 작아져 갔다.

phwungseni sonaneyse cakacye kassta

風船が手のひらで/?を(?から)小さくなっていった。

例(15)(16)の「小さくなっていく」表現は同じ動作主で場所名詞だけが異なっている。日本語においては場所名詞によって助詞「を」と「で」が使い分けられているが、韓国語では両方とも「에서(eyse)」が用いられている。

4. 韓国語の格助詞「에서(eyse)」について

韓国語の「에서(eyse)」格は二つの形態で構成されている。つまり、「에서(eyse)」は密着の対象を示す「에(ey)」²⁾と「서(se)」(奪格)³⁾から構成されたものである。これは日本語では助詞「から」と「で」によって表される。「서(se)」が奪格の要素を持っているということは、次の例によく表されている。

(17) 그 사람은 어디에서 왔니?

ku salamun etieyse wassni

その人はどこから来たの。

그 사람은 어디서 왔니?

ku salamun etise wassni

(18) 그는 벌써 서울에서 떠났다.

kunnun pelsse sewuleyse ttenassta

彼はすでにソウルから離れた。

그는 벌써 서울서 떠났다.

kunnun pelsse sewulse ttenassta

(19) 영화가 길에서 논다.

yenghuyka kileyse nonta

ヨンイが道ばたで遊ぶ。

*영화가 길서 논다.

yenghuyka kilse nonta

(20) 철수는 매일 운동장에서 뛰었다.

chelswunun mayil wuntongcangeyse ttwiessta

チヨルスは毎日運動場で走った。

*철수는 매일 운동장서 뛰었다.

chelswunun mayil wuntongcangse ttwiessta

(17)(18)は移動の起点を表すので「에서(eyse)」だけでなく、「에(ey)」が省略されて「서(se)」だけで用いられても自然であるが、(19)(20)のように動作が行われる場所を表す場合は「에서(eyse)」格の「에(ey)」を省略した「서(se)」だけでは不自然になる。17)18)と19)20)は日本語において助詞「から」と「で」で明確に分けられる。

「小さくなっていく」という表現を、日本語で経路として用いるとき、例文(1)のように「で」を用いることはできない。しかし、韓国語では助詞「에서(eyse)」の「에(ey)」を省略できないことから「動作が行われる場所」を表していることになる。つまり、韓国語においては、例えば「大通り」という場所において「小さくなっていく」という変化が

起きるとき距離感が感じられる。一方、日本語の「小さくなって行く」表現は「限定された空間における線的な動作」である。

韓国語の「에서(eyse)」は、「密着した対象における動作」⁴⁾を示すといえる。そのため起点指向性移動動詞と共に用いられると＜起点＞の奪格としての機能を果たし、後接する起点指向性移動動詞の影響で「密着した対象（場所）から離れる」という意味を表すことになる。移動行為を表すときは日本語の「で」格の役を担うので限定された場所内での行為を表すことになる。

5. まとめ

本稿では、同じ場所名詞と同じ移動動詞が用いられたとしても格助詞一つで文の意味が決まることについて述べてきた。格助詞によって経路であるか、限られた場所での移動行為であるかが決定される。つまり、両言語の表現の違いの一つに助詞の取り方の相異があげられる。そこで、本稿ではどういう理由でこのような日本語と韓国語の解釈の相異が起きるかという問題について考察した。日本語の「小さくなっていく」という表現と韓国語の「작아져 가다」という表現の違いは、日本語では＜経路＞表現としての動作的な移動としてとられるが、韓国語では限られた場所での状態の連続的な移動としてとらえる点にある。

「小さくなっていく」表現は、日本語においては経路を表す「を」格とともにしか用いることができないが、韓国語においては＜経路（部分的な）＞の「로(lo)」格、＜移動行為（密着された空間での）＞の「에서(eyse)」格と共に用いられることができ、さらに、＜起点＞を表すことも可能である。そして、韓国語の「에서(eyse)」格は、「密着した対象（場所）における動作」を表す。この「에서(eyse)」は起点指向性移動動詞と共に用いられると＜起点＞の奪格としての機能を果たし、移動行為を表すときは日本語の助詞「で」のように方向性のない移動行為（動作）の役を担うのである。

韓国語においては場所を基準として＜起点＞＜経路＞＜移動行為＞などに分けて表現することが可能であるが、日本語は場所を限定するのではなく動作に焦点を当てていることが分かった。これは、影山(1996)が言っている日本語の＜動き重視（経過重視）＞傾向と英語の＜結果重視＞傾向と関連づけて考えることができる。韓国語は日本語の＜動き重視＞傾向よりは、＜場所重視（結果）＞傾向であるといえる。これを裏付けるより確実な証明は今後の課題である。

＜注＞

1. 「小さくなっていく」という文のパターンが移動構文であるかどうかという問題もあるが、実際、日本語においては次の例のように「大きくなってきた」という移動

表現もありうることで本稿では移動動詞構文として見なすことにする。

その人の影が大きくなって近づいてきた

2. 国広の「に」の意義素（密着した対象を示す）と類似
3. 金敏洙(1970)では「서(se)」を奪格としてみている。そして、에서(eyse)を一つの形態素とみるべきか二つの形態素として扱うべきかについては議論の余地があるが、本稿で本筋とは関係ないのでその論議はさけることにする。
4. 安明哲（(1982)「冠岳語文語7」）では「에서(eyse)」はある行為が起きる空間的な背景を意味している」と述べた。それで、移動の幅が「에서」で提示された空間より大きい場合、移動対象は行為結果その空間から離れてしまって「에서(eyse)」は自然に出発点を意味し、移動の幅が空間的な背景より小さいとき、行為全体の空間的な背景の中の意味になる。（安は「에서」は行為あるいは事態がなされる空間を表し、「서」はある事件とか事態がおきる与えられた範囲あるいは背景の意味をもつと述べている。）

<参考文献>

池上嘉彦(1980)『意味論』大修館書店

(1981)『「する」と「なる」の言語学』大修館書店

影山太郎(1974)「場所理論的見地から」『言語の科学』第5号、東京言語研究所

影山太郎(1994)『動詞意味論』くろしお出版

国広哲弥(1967)『構造的意味論』三省堂

(1978)「時間接統表現の意味・意味素の分析」『国語と国文学』第55巻
5号、東京大学国語国文学会

田窪行則(1984)「現代日本語の場所を表す名詞類について」『日本語・日本文化』12号、
大阪外国語大学研究留学生別科

김용석(1979)「目的語助詞「을／를」に関して」『말』연세대학 한국어학당

송병학(1978)「韓國語の処所格」『人文科学論叢』대전대학교

이기동(1977)「動詞「오다」と「가다」の意味分析」말 3

임흥빈(1974)「「로」と選択の多様化」『語学研究』10:2 ソウル大学校

(1979b)「「을／를」助詞の意味と統辭」『韓國學論總』2 ソウル國民大學